

knob

夏井孝裕

SCENE 0.0 MO "ONE FOUR SEVEN ONE" by ARAB STRAP.

"YOUR SPIRIT" by PRESENCE

"Youpi (Kid Loco Space Spaghetti mix)" by CORNU
舞台の床は白い紙で埋め尽くされている。

SCENE 0.1 M1 "Wilson" by Saint Etienne

M1 V. UP. ミサコ、登場。暗転。M1 F.O.

SCENE 1.0 カタヤマ、入ってくる。横たわっているミサコに目をとめる。

カタヤマ …上の階、全然駄目だった。鍵かかってね…。

ミサコ、返事をしない。

カタヤマ このフロアだけだよ。入れんの。

ミサコ、動かない。

カタヤマ ……風邪ひくよ。

ミサコ 死んでるの。

カタヤマ え…？

ミサコ 死んでるのです。

カタヤマ ミサコが…？

ミサコ 死んでます。

カタヤマ ああ…。

ミサコ ああ、では死体はかなしいのです。

カタヤマ え。

ミサコ かなしいのです。

カタヤマ …。

カタヤマ、ミサコのそばに膝をついて

カタヤマ
ミサコ
ナームー。

んー。

カタヤマ
ミサコ
泣くな。(立ち上がる)

じゃあ次カタヤマくん。

カタヤマ
ミサコ

え？

カタヤマ
ミサコ
カタヤマくん死んで？

カタヤマ
ミサコ
……。

カタヤマ、ミサコがやっていたように横たわる。

ミサコ
カタヤマ
なんか、やってあげるって感じたね。

ミサコ
カタヤマ
そう？

ミサコ
カタヤマ
しょうがないかもしれないけど。

ミサコ
カタヤマ
うーん…。

ミサコ
カタヤマ
死んだ？

ミサコ
カタヤマ
死んだよ。

ミサコ
カタヤマ
死んじゃったんだ…。

ミサコ、ひざまづく

ミサコ
カタヤマくん、どうして死んじゃったの…？

カタヤマ、思わず跳ね起きてつつこむ

カタヤマ
ミサコ
おいおい。

カタヤマ
ミサコ
え…？

カタヤマ
ミサコ
どうしてっっていわれてもさ。

ミサコ
カタヤマ
ミサコ
カタヤマ
ミサコ
質問が難しかったか。
そうじゃなくて、
いいのよ。死んでる人は答えなくて。
…まあな…。
死んでる人はなにもなくていいのよ…。

間

ミサコ
カタヤマ
ミサコ
カタヤマ
ミサコ
カタヤマ
じゃあ、はい。
え…？
死んで死んで。
♪死んで死んで死んで…、ごめん。魔が差した…。
…。
何やってんだらうね…。

カタヤマ、横たわり、目を閉じる。

ミサコ
かなしいな…。

ミサコ、窓へ向かう。
カタヤマ、死んだ真似の意味がないことに気づき、起き上がる。

カタヤマ
ミサコ
カタヤマ
ミサコ
カタヤマ
ミサコ
カタヤマ
何か見える？
え？
景色。あ、いいね。
いい？
うん。おれ実家が工業地帯だったからこういう風景好きだよ。でも寒いから閉めよう。(窓を閉める)…寒くないの？
うん。
これから寒くなるよ…。

ミサコ カタヤマくん、帰りたい？

間

ミサコ いいんだよ…？カタヤマくんが意味がないって思うんだったら…、
そんなこといつてないだろ、

カタヤマ ミサコ 思っていない？

ミサコ …ミサコにとつて、それが必要なことなら…

カタヤマ ミサコ カタヤマくんは？意味がないって思う？

ミサコ わからないよ。目的がピンと来ない。何でここの？

カタヤマ ミサコ ここが一番いいと思って。

ミサコ あたしとカタヤマくんの間にも入らないように。

カタヤマ ……。

ミサコ 電車、まだあるけど。

カタヤマ …何。

ミサコ ううん、別に…。

カタヤマ、ミサコのスーツケースに腰を下ろす。
煙草を口に啜えるが、ライターの火が点かない。

想像するの。

……。

ミサコ こういうところでカタヤマくんがボーツと外見てるよね、誰も来ない筈なのにあた
しが来て、あたしも誰もいないと思ってたのにカタヤマくんがいて、あたしとカタヤ
マくんは初めて出会うの。「どうも」「どうも」「びっくりした、こんなとこに人がいるな
んて思わなかったから」「こっちはですよ」「何やってるんですか？」「何やってるんじよ
うね」「そういうふうに出会うの。」

カタヤマ やってみようか。

ミサコ いい。想像してみたただけだから。どんな会話になるか。

カタヤマ ……。
ミサコ あとの会話が浮かばないや…。なに話すんだろうね。
カタヤマ 結局俺が泣かすようなこといっちゃうんだろな。
ミサコ ……あたしが泣くのは、カタヤマくんのせいじゃないよ…？
カタヤマ でも俺と話してて泣くだろ？
ミサコ それでもカタヤマくんのせいじゃない…。
カタヤマ ……。
ミサコ 泣き止むまで待っててくれて、ありがとう…。
カタヤマ 何だよ。
ミサコ やつとこいえた。
カタヤマ ……。
ミサコ 大好きだよ。
カタヤマ ……どうしたの？
ミサコ どうしたのかな。からだが軽くなってる。
カタヤマ なんだそりゃ。
ミサコ もう迷惑かけないようにするよ。
カタヤマ お前ほんとに変。
ミサコ 変？
カタヤマ 変だよ。さっきまでめちやくちや沈んでたのに。
ミサコ カタヤマくん。

M2

F.1.

カタヤマ ん？
ミサコ いま足音がした。
カタヤマ え？

二人、耳を澄ます。

ミサコ こっちに来る。

カタヤマ え？
ミサコ 見えてきて。
カタヤマ だって…。
ミサコ お願ひ。
カタヤマ ……。

カタヤマ、出口へ。

ミサコ

ごめんね。

ミサコ、静かに窓へ歩いていく。M2 v. JP.

ミサコ、窓を開ける。
暗転。

SCENE 2.0 カタヤマ、戻ってくる。 M2 F. O.

カタヤマ …あれ…？

一瞬、状況が理解できない。

カタヤマ ミサコ…？

階段へ行き、また戻る。

カタヤマ ミサコ？ 誰も来ないよ…？

返事はない。

カタヤマ 何も隠れることないだろ…。

スーツケースが残っている。

カタヤマ ミサコ…(スーツケースをノックしてみる)。ミサコお…!! (振り回す)

もう一度あたりを見回す。

カタヤマ 蒸発…。(いやいや…)

窓が開いているのに気づく。

カタヤマ ……………え？

煙草を取り出して口にくわえるが、火が点かないのを思い出し、しまう。

カタヤマ ……………。

間

カタヤマ ……寒くなると思うよ…。今寒くなくても…。寒くなる…。

スーツケースに腰を下ろす。

カタヤマ どこ行ってたの…。心配したよ…。すごく心配した…。もう…。

立ち上がる。

カタヤマ ミサコー…！

やはり返事はない。

カタヤマ 痩せるー！

耳を澄ましてみる。ぼんやりと部屋を歩く。

カタヤマ ……やり直したいのか…。この部屋で…。俺と出会って…。初めて出会って…。言葉
を交わして…。待たなきゃいけない…。

カタヤマ、窓に向かう。

カタヤマ ……このココロの空白の巨大さを、きみは知らない。

SCENE 2.1 音楽が聞こえてくる。「花咲く乙女よ穴を掘れ」 by moon riders)

カタヤマ えっ…。

カナ

……！！

カタヤマ、思わずスーツケースを持って部屋の隅へ。
ラジカセを下げた女が入ってくる。カナである。
カナ、カタヤマには気づかず、ラジカセを置き、服を脱ぎ始める。
カタヤマ、スーツケースを置き、音をさせてしまう。

カナ、驚き、ラジカセを止める。静かになる。

カナ

……どうも。

カタヤマ

……どうも。

カナ

びっくりした……。こんなところに人がいるなんて思わなかったから。

カタヤマ

こっちはですよ……。

カナ

何やってるんですか？

カタヤマ

何やってるんでしょね……。 (カナの視線にややたじろぐ) 待ってるんです。

カナ

こんなとこで待ち合わせ？

カタヤマ

いや、いなくなっちゃって……。

カナ

どなたが？

カタヤマ

えー、連れがね。ちよっと。

カナ

探しには？

カタヤマ

行ってすれ違うかもしれないし……。ビルの外だとすると広すぎますよね……。荷物は

カナ

ここにあるし、たぶん戻ってくるんじゃないかと。

カタヤマ

そう……。

カナ

……さっきの曲は……。

カタヤマ

ムーンライダーズ。

カタヤマ

ムーンライダーズ……。あの、ここにはどういった……？

カナ、渋い表情。

カタヤマ
カ ナ
いや、別にどうだっていいんですけど、
……待ち合わせ。

カタヤマ
カ ナ
こんなところで？

カタヤマ
カ ナ
こんなところで。詳しくはいいですよ。相手が来たらすぐ出ていきます。

カタヤマ
カ ナ
はい…。

カタヤマ
カ ナ
どうしてここにいるのか、きいてもいい？

カタヤマ
カ ナ
…連れてってっていわれたんです。去年開発中止になったネオフロンティア、雑誌で読んだら凄かったよってという話をしたらどこか忍び込めないかってその、彼女が。

カタヤマ
カ ナ
ふん

カタヤマ
カ ナ
で、話してるうちに泊まりこもうってことになっちゃったんですよ。本気だとは思ってなかったんですけど…。変でしょ。

カタヤマ
カ ナ
面白い人だ。

カタヤマ
カ ナ
もう死んでんじゃないかって、思うんですよ…。

カタヤマ
カ ナ
なぜ？

カタヤマ
カ ナ
その窓から飛び降りたんじゃないかって…。

カタヤマ
カ ナ
え？

カ ナ、窓へ向かう

カタヤマ
カ ナ
見ますか？

カタヤマ
カ ナ
だって、

カタヤマ
カ ナ
濃厚ですよ、可能性は。

カタヤマ
カ ナ
どうしてよ…

カタヤマ
カ ナ
この部屋に一緒にいたときは、窓は閉まっていたんです。俺がほんの少し外に出たあ
いだにあいつはいなくなっていて、この窓が開いてた。

カタヤマ
カ ナ
どっか隠れてるんじゃない？

カタヤマ
カ ナ
隠れる場所なんてないですよ。窓が開いてる説明もつかない。
じゃ、飛び降りたんだ…。

カ ナ、窓から離れる。

カタヤマ、やや動揺する。

カタヤマ　ここに来る途中で、喧嘩したんですよ…。

カナ、特に反応しない。

カタヤマ　内心面倒くせえなって思ってたのがわかったんですね、「見つければいいと思ってるでしょ」っていわれて「思ってる」っていつちやって…。

カナは興味がないようだ。

カタヤマ　見つければいいなんて別に思ってなかったのに、いわれた瞬間、「ああ、みつければいいな」って思っちゃったんだな。「いいよ、一緒に行こう」って連れてきたのになど終わるのか俺には全く見えなかった。それが耐えられなくて…、なんていうか…、でもそんなことが問題だったんじゃないかと…、別に説明してくれなくていいですよ？

カナ

カタヤマ　話したいなら聞きますけど。

カタヤマ　ああ、すいません。怖くて…。

カナ

カタヤマ　でもオドカシかもしれないですよ。窓の外に隠れてるのかもしれない。

カナ、反応しない。

カタヤマ　あいつ時々変なことするんですよ。さつきも床に寝そべって死んだふりなんかして

カナ　窓の下、見なさいよ。

カタヤマ ……………。
可能性は半々じゃない？ カラスの声がしないから死体なんてないのかもよ。

SCENE 2.2
カタヤマ、窓へ向かう。M3 V. UP.
タロウ(仮)、駆け込んでくる。

二人 ?
タロウ(仮) ママー！
カタヤマ ……ママ？
カナ え？
タロウ(仮) どうなんだ！
カナ 何あんた…！

SCENE 2.3
タロウ(仮)、去る。M3 F. O.

カナ ……………何、今の…。
カタヤマ さあ…。
カナ ……意外と人くるんだね…。
カタヤマ そう、ですね…。
カナ 窓。
カタヤマ え？
カナ 外、見なきゃ。
カタヤマ ああ。

カタヤマ、窓に行きかける

カタヤマ 誰か来る。
カナ え？
カタヤマ 見ようとする誰か来るよ。
カナ え？

カタヤマ いや、何でもない。

カナ 何、今の。

カタヤマ 冗談……。

カナ ……………。

カタヤマ (窓に行きかけて) ……やめた。見ない。

カナ ……………。

カタヤマ どうだっていいよ……。

カナ ……………。

カタヤマ、カナの視線に耐えられなくなる。

カタヤマ あいつどうしたかな、さっきの。

カタヤマ、出口へ。

カタヤマ 俺、ちょっと見てくる。……………!

SCENE 2.4

タロウ(仮)、再び入ってくる。

タロウ(仮) ……………。

カナ 何？

タロウ(仮)、突然窓に向かい、下を見下ろす。

カタヤマ 何か見えるか……？

タロウ(仮) ……………。

カタヤマ おい……。

タロウ(仮) スズキさん！

カタヤマ 誰だそれ！

スズキ 何。

SCENE 2.5

スズキ、現れる

タロウ(仮) 怒ってる？

スズキ 怒ってない。

タロウ(仮) 怒ってない？

スズキ 全然怒ってない。早く帰ろう。すみませんでしたね。びっくりしたでしょう。

カナ まあ、

スズキ 帰るぞ。

タロウ(仮) 歌を歌うよ。

スズキ あ？

タロウ(仮) ♪月火水木金土日！ 月火水木金土日！ 月火水木金土日！

スズキ ちなみに今日は土曜日ですが明日は何曜日でしょう。

タロウ(仮) ……………月！

スズキ 全然わかってないんですよ…。

タロウ(仮) どうだ。

スズキ いいから帰ろう。

タロウ(仮) (カナに)ママだよね。

スズキ ちよつと違う。

カナ 全然違う。

タロウ(仮) またね。

カナ また…。

スズキ すいませんね。…ところで、あの、何やってるんですか…。

カナ ……何やってるんでしょう…。

スズキ まあ、それじゃ…。

SCENE 2.6

サノ登場。

サノ 何やってるんですか？

スズキ ……何やってるんでしょうね…。

SCENE 2.7

スズキ、タロウ(仮)を連れて去る。

サノ
おい…!!

サノ、カタヤマに目を向ける。

サノ
なんだあいつ。

カタヤマ
さあ…。

サノ
お前は。

カタヤマ
待ってるんです。

サノ
え？

カタヤマ
一緒に来た人がいなくなっちゃって…。

サノ
女？

カタヤマ
ええ、一応…。

サノ
戻ってくるの？

カタヤマ
……。

カナ
わかんないんだって。

カタヤマ
たぶん戻ってくると思うんですけど…、

サノ
何でこんなところに人がいんだらうな。

カナ
同じこと考えるんだね。

サノ
どうする？

カナ
どうするって…、違うところこうよ。

サノ、黙ってフロアを歩く

サノ
参ったな…。

カナ
だってわたし達のビルじゃないし、先に来たのはこの人だから。

サノ
わかってる。

カナ
じゃあ、怒った顔しないで。

サノ (カタヤマに)俺たちが出てくしかないよな。
カタヤマ やめてよ、
サノ 他にもいい場所はあるだろうけどさ、広すぎる。
カタヤマ 探しに行こう？
サノ エレベーターが動いてりゃそうしてもいいけどな。
カタヤマ そんな勝手なこと、
サノ もう一人ね、ここに来るんだよ。
カタヤマ え？
サノ すれ違ふとまずいんだ。
カタヤマ いいです…。戻ってきたら俺たちが出てきますよ。

サノ、軽くうなづく。

カタヤマ …ごめんなさい。
サノ いえ…。
カタヤマ 地上げ屋みたいだな、俺たち。
サノ ちよっと…。
カタヤマ ただ待ってるのも何だよな、始めようか。
サノ え？
カタヤマ ゲストも遅いしさ。
サノ 誰、来るの？
カタヤマ もういいよあいつ。どうせどっか違うビルでうろろしてんだろ。この人がいればいいさ。
サノ でも…、
カタヤマ こういうのも何かの縁でしょう、月並みな言葉だけど。
サノ ……。
カタヤマ 何のことだか、ね。
サノ …まあ。
カタヤマ カナのこと、どう思います？
サノ どうって…。そういう名前だったんですか。

サノ カはカローラのカで、ナはナイキのナ。
カタヤマ ああ…。

サノ カタカナでカナ、かな？

カタヤマ ……。

サノ 笑ってくれないね。お名前は？

カタヤマ ……カタヤマです。

サノ どう書くんですか？

カタヤマ えっ…。

サノ 書き方。

カタヤマですから…、カ、タ、ヤ、マ…。

サノ ……面白いね。

カナ そうか？

俺とカナはね、冗談のセンスが違うんです。俺が冗談を言うともものすごく嫌になるんだな。笑ったことがない。そしてカナは俺に決して冗談を言わないんです。誰にも言わないわけじゃなくて、俺に言わないわけ。そうだろ？ で、俺が本当のことを言うとすぐ冗談にしちゃうんだな…。

カナ ……あなたも名前言ったら？

サノ 言ってなかったね…。

カナ そんなこと人に言わなくなっちゃって…。そう思ってたんなら言ってくればいいのに…。

サノ 名前、当ててみて。

カタヤマ え？

俺の名前、当ててみて。世界一名字の多い国らしいですよ、日本は。当てたら偉いね。

カタヤマ ……当てたら、何かくれますか？

サノ 馴れ馴れしい奴だな…。

カタヤマ ……。

サノ 冗談だよ。

カタヤマ ……冗談って、

サノ 名前当てられたらね、どうしようか。何でもいいよ。

カタヤマ あの窓の下、見てくれますか？

サノ 下？
カタヤマ 俺が勝ったら、下に女の死体がないか、見てくれますか？
サノ ……………。

間

サノ 何回勝負にしようか…。

M4 “The Wilderness” by Jansen/Barbieri/Karn F. I.

カタヤマ え、
サノ 一発じゃ無理だろ。
カタヤマ じゃ百回。
サノ ……いいよ…。
カタヤマ 俺が負けたら、俺もあんたの言うことききますよ。
サノ あんたやっぱり面白いよ。(免許証をとりだす)

SCENE 2.8

M4 V. U. P.

カタヤマ 安永！ 津田！ 柏木！ 遠藤！ 荒木！ 久保！ 中川！ 中村！ 村野！

カナ、指でカウントし、サノ、首を振り続ける。

カタヤマ (山本くん、名前を言いまくって下さい)

タロウ(仮)、ビルの谷間をさまよう。また何か拾う。軍手である。
スズキ、現れる。パンを取り出し、タロウ(仮)とわける。
タロウ(仮)、またどこかへ行ってしまふ。スズキも追って去る。

SCENE 2.9

M4 F. O.

カタヤマ 春山！ 小宮山！ 加納！ 溝口！ 土橋！ 吉岡！ 古賀！ 川上！ 桂！
サノ 百。

カタヤマ ああ。(倒れる)

サノ 正解はサノ。(免許証を見せ、しまつ)

カタヤマ カーッ。サノさんかー。

サノ 惜しかったな。

カタヤマ つまんねえ名前…。

カタヤマ カタヤマさん、

カタヤマ ?

カタヤマ 逃げなきゃ。

カタヤマ ……ハイ？

カタヤマ 別にいいけど。

カタヤマ ええ？ (起き上がる)

カタヤマ カナ、マフラーをとる。首輪が見える。

サノ しばらくね、見てほしいんですよ。構いませんよね？

カタヤマ はあ…。

サノ お前がどういう女だか、見てもらおうね…。

カタヤマ サノ、カナにアイマスクをする。

MS “ it. s important to be trendy. by momus (0. 13. カヲ)F. I.

カタヤマ (アイマスクを外す)ねえ、ちょっと待って…。

サノ え？

カタヤマ やっぱりやめて、こつ…。

サノ 何で。(カナの手首を拘束する)

カタヤマ お願…。

サノ 恥ずかしいの？

カタヤマ ダメだよ…。

サノ

カタヤマ

サノ

いうことがきけない？

カナ、手首を拘束されてしまう。サノ、再びカナにアイマスクをする。

サノ

怖がらなくていいよ…。

カナ

怖いんじゃない…。

サノ

何？

カナ

…。

サノ

ご挨拶は。

カナ

サノさん、

サノ

ご主人様だろ…。お前は誰？

カナ

…。

サノ

言いなさい。お前は誰？

カナ

わたしは…、イヌです…。

サノ

誰の？

カナ

わたしはご主人様の、イヌです…。

サノ、カナを抱く。MS V. UP.

カタヤマ、スーツケースをもって去る。

SCENE 3.0

部屋。

サノ、カナの拘束を解く。

カナ、目隠しを外すと両手で顔を覆い、目を擦る。M5 F.O.

サノ 疲れた？

カナ (首を振る) 眩しい。

サノ 大丈夫？

カナ 大丈夫。でも…、怖かった。

サノ ……。

カナ 話しかけられたり、触られたりするときはいいけど静かになると、見えないから怖い。

サノ 擦り過ぎ。

カナ、うなづくが、また擦りまくる。

サノ おい。

カナ サノさん、

サノ ん？

カナ わたしやばい。

サノ ……何が。

カナ あなたのこと好きになってる。

サノ ……。

カナ それはセックスとかをずっとしてるからっていうことじゃなくて、サノさんのブレーキを感じるからなの。

サノ ブレーキ。

カナ 痛いのが耐えられなくなる前にきちんとやめるよね。

サノ 顔でわかるから。

カナ うん、それはうれしい。でも優しくなくていいのに。

サノ ……。

カナ サノさんが自分の欲望を怖がってるから、その分わたしが一人になる。ような気が

する。

ゆっくりと片手を目に持っていくサノ。

サノ、突然目を擦りだす。

なに？

別に。

……今度さ、パーフェクトを見せてよ。

パーフェクトって？

サノさんの全部。抑えてないエゴ。そういう最終的なサノさんが見たいの。

……。

サノさんはわたしがしてほしいことをしてくれて、すごく嬉しい。わたしのしてほしいことをわたしより知ってたからだよね。わたしは受け止めるだけだから同じようにはいかないけど、でもサノさんが本当にやりたいことを知りたいから…、だから…、もっと何でもしてほしいよ？ たぶん。それが何だかはわからないからあれだけど…。

……。

わたしはね、サノさんとすることで精神のバランスがとれてる。でもサノさんは、そうじゃないような…。ヘンなこといつてるかな…。

間

…旅行でもするか。

何いきなり。旅行嫌いなんじゃない？

嫌いだよ。

どうして？

(考える) 行ったとこの景色がいくら綺麗でも、それは結局要らないものだから。行ってもつまらないんだ。

いや、行けば楽しいよ。風が変わるし、匂いも、土地のテンションも違うし、気分が変わって楽しいには楽しいんだ。朝が好きになれるしね。でも揺り戻しがくるん

サノ
カナ
サノ
カナ
サノ
カナ
サノ

サノ
カナ

カナ
サノ
カナ
サノ
カナ
サノ
カナ

だよ。
え？

カ ナ
サ ノ
周りの風景全部が、何ていうか…、俺を切り離してしまうのね。そういうの、ない？
ないだろうな…。疎外感に耐えられなくなる。

カ ナ
サ ノ
なじめないっていうこと？

サ ノ
カ ナ
…：そうかな、そういうことか…：違うな。なじめないのは最初からそうなんだよ。
知らない土地だから。問題はその景色が…：。そうかな…：。

間

カ ナのからだを撫でてるときに近い。
え？

サ ノ
似てるよ。同じじゃないけど。

カ ナ
わたしはあなたを切り離したりしてない。

サ ノ
そうだな…。

カ ナ
わからないよ、どういうこと？

サ ノ
…：いや、いいんだ…。

カ ナ
…：……。

サ ノ
へんなことって悪かった。気にしないで…。

カ ナ
…：…：旅行ってどこ行くの？

サ ノ
旅行っていうのも変だけどさ、ネオフロンティアの建設予定地、知ってる？

カ ナ
何？

サ ノ
そういうのがあるんだよ。埋め立て地にテーマパーク作ってたの。開発中止になっ

カ ナ
てさ、凄いよ。

サ ノ
…：どこ？

カ ナ
あとでファックス送る。

サ ノ
連れてってくれないの？

カ ナ
一緒に行くって優しくなっちゃうからさ。

カナ ……怒った？

サノ そんなこときくなよ。

カナ だって、

サノ カナ、俺のいうこときける？

カナ きいてきたじゃない。

サノ (うなづく) 今度はさ、名前で呼ばないで。

カナ、頷く。

サノ それから、好きだなんて二度というな。

カナ ……わかった。

サノ (コートをとる) 再来週でいい？

カナ ……その頃は体調が悪くなってる。

サノ じゃあ三週目に。

カナ (うなづく) きいてもいい？

サノ ……。

カナ あなたとほかのこともしたくなったら、どうすればいい？

サノ ……いえはいいだろ？

カナ いったいの？

サノ 内容によるじゃない。例えば？

カナ 例えば……………

サノ ……。

カナ もういい。

サノ カナ？

サノ 悪いけどもう帰ってくれる？

サノ ……。

サノ、再びカナの手首を拘束する。

カナ …あなたのこと、嫌いだから。

サノ、後ろから抱きしめる。

カナ 嫌いだってば。
サノ かなしいね…。

SCENE 3.1 M6 V.U.P.

タロウ(仮)、現れる。振り返り、ビルを見上げる。

カタヤマ、静かにスーツケースをひいて中へ。

タロウ(仮)、去る。

サノ カタヤマさん。

カタヤマ ?

サノ こっち来てさ、叩いてやってくれますか？

カタヤマ いや、いいです…。

サノ いいですか。(カナに)お前の尻なんて叩く気がしないって。

サノ、カナから離れ、カタヤマのところへ。

サノ びっくりしました？

カタヤマ ……こんなことしに来たんですか。

サノ こんなことだって。

カタヤマ それやめましょう？

サノ え？

カタヤマ いや、変に解釈するの。

サノ ……あの女に、興味はない？

カタヤマ ……どういう意味ですか？

サノ 君の好きにしたいわけではないかっていってるんだよ…。

カタヤマ そうなのって、

サノ 本人が望んでても？

カタヤマ そんな、

サノ きいてみればいい。

カタヤマ やめて下さい。

サノ カタヤマさん。ブレーキをかけるのはそこじゃない…。

カタヤマ

サノ ええ？

カタヤマ まあいいよ、話をしよう。(カナに)痛くない？

サノ ……(頷く)。

カタヤマ 待ってて。

サノ ……はい。

サノ (カタヤマに)不快ですか？

カタヤマ

サノ ……。
ハッキリいっていいんですよ。変態につきあわされるのは我慢ならないって。

カタヤマ いや、大丈夫です。

サノ 何が。

カタヤマ え？

サノ 何が大丈夫なの？

カタヤマ ……俺が。

サノ ああ、ああ…。

カタヤマ 見てる分には大丈夫ですから、あの、どうぞご自由に。

サノ 頭にくるな。

カタヤマ ええっ。

サノ 知らんぷりするなよ。君が思ってるよりずっとシリアスなことなんだからさ。

カタヤマ ……。

サノ いなくなつた女の人、気になる？

カタヤマ ……まあ。

サノ 飛び降りたの？

カタヤマ ……たぶん、そうです…。

サノ 何してそうなったの？

カタヤマ ……冷たくしたから、じゃないかな…。

サノ 君が殺したってのか。そうじゃないんだろ？

カタヤマ ……。

サノ 別に話さなくたっていいけどな。

カタヤマ (目を合わせずに)じゃあ、いちいち聞かないでくださいよ…。

カナ、顔を上げてカタヤマを見る。

サノ ……。

カタヤマ さつきから、いったい…。見てほしいだけじゃなかったんですか。

サノ きみ、全然大丈夫じゃないじゃない。

カタヤマ ……………。

サノ 大丈夫じゃないよ。

カタヤマ 理由が知りたいんです。

サノ 俺が、君に話しかける理由？

カタヤマ ええ。

サノ 危険な欲望に手をかけているからさ。君のことを理解したいっていう欲望ね。

カタヤマ ……何が何だか…。

サノ いやならやめる。迷惑かな？

カタヤマ ……もう別にいいですよ…。

サノ 女のこと、話してよ。いついなくなったの？

カタヤマ ……三十分ぐらい前に、ちよっと下の様子見にいったら、いなくなっちゃって…。

サノ 喧嘩でもしたの？

カタヤマ いえ、ここに来てからは。…昨日の夜から、というか、よく言い争ってたんですけど…、さっきまでは別人みたいで…。ときどきそうなんです…。安定しないって

サノ いうか…。ここに来る途中でも凄い喧嘩して…。

カタヤマ 喧嘩は君のせい？

サノ ……どっちっていうものでもないでしょう。

カタヤマ でも彼女が死んでたら？ きみは泣かないかな。俺のせいだー。俺が殺したようなもんだー。

カタヤマ、キレかけ、こらえる。

カタヤマ ……あなた、どうかしてますよ。

サノ、カタヤマの視線を平然と受け止める。

カタヤマ 俺は昨日ミサコと喧嘩して、殺そうと思いましたがよ。こんな奴死んでいいと思った

サノ な！

カタヤマ ……それで？

カタヤマ あいつが今死んでても、たぶん死んでるけど、俺は絶対あいつに悪いなんて思わな

カタヤマ

サノ

カタヤマ

サノ

いですよ。

泣かない？

カタヤマ 泣いちゃいけないんですか！

サノ 死んでいい人が死んで、何で泣くの…。

カタヤマ

サノ

本当に死んでいい人間なら、自分で殺せよな。確実にさ。誰も見てやしないんだから。

カタヤマ

サノ

…俺が殺してたとしたらどうします？

バカ。

カタヤマ

サノ

え…？
自分がどう見えてると思う…。

カタヤマ、黙る。長い間。

カタヤマ

サノ

聞いてくれますか？

カタヤマ

…。
ミサコが死んでたら…、俺はミサコの話の誰かにすることってないと思うんですよ。

サノ

カタヤマ

死んでるんだろ？

もしミサコが死んでたら、俺がミサコをどう見て、どう思ったか、それを知る人がいなくなる。

サノ

ええ？ だからって、

カタヤマ

サノ

聞けよ！

カタヤマ

…。
それだけいいこと言ってくれたんだ、聞いてくれたっていいだろ…？ ミサコは

…、俺の前で…、いつのまにかすぐおかしくなってきた…。俺は気づかなくて…。

本当に長い間、気づかなくて…。何をしても俺にきくんです。これ食べていい？

トイレいいっていい？ 眠っていい？ 俺の気に入らないことをしてしまふのが怖いみたいなんです…。あいつね。コンビニと一緒にいったとき、俺が冗談でカゴの中に

キャットフード入れて「ミサコのエサ」っていったらそのままレジに出して、夕御

飯のときほんとに食い出したんですよ。モンプチビーフ一缶。あれ、食べられる味じゃないでしょ？でも食ってるんですよ。ムキになってるわけでもなくね。わかりますか？ずっと前から主食にしたような顔で、一口、一口…。俺はもう、ぞっとして…。ねえ、まずいんだろ…？「そうだけど、食べなきゃ」「食べなきゃ何なんだ。「何って？」食べなくていいよ、ギャグだから。ごめん。「え？別にいいよ」だから食べるなって。「でも残ってるから」だから？「カタヤマくん食べる？まずいけど」…俺ね、食いましたよ。食ってもしょうがないのはわかってたけど、それしかないじゃないですか。バカみたいかな！あいつに何が起こったのかわからなくて、あのキャットフードを食べる音を聞くのが耐えられなくて、モンプチ、食いました。早くそいつをなくしてしまいたかったけど、十分以上かかりましたよ。ミサコはそのあいだずっと、ニコニコ俺の顔を見てました。でも俺を見てない。俺がどんな気持ちで食べてるかはまるで伝わってない。花瓶の花でも見るみたいに、見てましたよ…。その前から兆候はあったんです。そのサインに俺は気づくべきだったんだ。助けてくださいっていう、自分がもう駄目になるっていうサインを見逃しちゃいけないかったんだ。気づいても何もできなかったのかもしれないけど、それでも俺は…気づくだけでよかったのよ…。

カナ

カナ

カタヤマ

サノ

カタヤマ

サノ

カナ

サノ

カナ

サノ

（拘束を解きだす）ずっと放置してからやるつもりだったけど、今日は駄目だ。
サノ、カナの首輪を外してやる。

サノ

帰ろう？

カナ
わたし、この人と話しがある。

M7 " Seven Hours. by THE HAFELER TRIO F. I.

サノ
……………何？

カナ
ごめん、先に帰るかちよつと外すか、してくれる？

サノ
死んだ気違い女と愛し合えなかった話？

カナ
悪いけど、話がしたいの。

サノ
(カタヤマに) 人気じゃない。じゃあね…。

サノ、去る。

Ⅲ、ゆっくりと大音量になっていく。

スズキ、タロウ(仮)を探して歩き回る。

カタヤマ、カナ、去る。

スズキ、疲れて座り込む。

SCENE 5.0 外。スズキ、腰を下ろす。遠くからタロウ(仮)の声がする。

タロウ(仮) スズキさーん…。スズキさーん。

スズキ、応えない。

SCENE 5.1 タロウ(仮)、現れる。M7 F.O.

タロウ(仮) スズキさーん。

うるさいんだよ。

タロウ(仮) 歌を歌う。1, 2, 3, 4, 5…

スズキ 歌うな！そんなにここ楽しい？俺もう疲れたよ。

タロウ(仮) (拾い上げる)ねじー。

スズキ ねじね。

タロウ(仮) (投げる)うりゃ。

スズキ 危ない。

タロウ(仮) どうだ。

スズキ ナイスピッチ。でももう投げるな。

タロウ(仮) 怒ってる？

スズキ 怒ってない。

タロウ(仮) よかった…。

間

スズキ 怒ったほうがいいのかな。

タロウ(仮) くぎー。

スズキ 投げたら怒るぞ。

タロウ(仮) ……。

タロウ、ものすごく投げたそうである。

スズキ 怒るぞ。

タロウ、泣く。

スズキ なぜ泣く。

タロウ(仮) 怒らないで。

スズキ 怒らないよ。

タロウ(仮) 怒らない？

スズキ 怒らない。ごめんな、おどかして。

タロウ(仮) 怒らないでほしいんだ。

スズキ 怒らないよ。おまえが何しても、怒らない…。

タロウ(仮) うん、わかった…。

タロウ、電池を拾い上げる。

タロウ(仮) でんちー。

スズキ ……………。

タロウ(仮) 投げない。

スズキ ……………。

SCENE 5.2 イワモト、登場。

イワモト あの、すいません。第二シーサイドビルっていうのは…。

スズキ えーっと、

タロウ(仮) でんちー。

イワモト ああ、どうも…。(受け取って悩み、ポケットに入れる)

スズキ すいません、ちよっと、ね。

イワモト はあ

タロウ(仮) どうだ。

イワモト
スズキ
イワモト
スズキ
イワモト
スズキ
イワモト
スズキ
いいんじゃないですか。
何でしたっけ。第二
シーサイドビル。
全然わかんないですね。
はあ。
すいませんけど。

イワモト、去りかけてまた戻ってくる。

イワモト
スズキ
え、

イワモト
スズキ
管理事務所とか、警備の人とか。

イワモト
スズキ
全然見ないですね。
はあ。

イワモト
スズキ
いたほうがいいんでしょうけど。結構ビルの中入れたりするんですよ。
入りました？

イワモト
スズキ
こいつがどんだん行っちゃうもんだからもう、ね。
誰か、いましたかね。

イワモト
スズキ
いましたよ、色々。
色々？

イワモト
スズキ
屋は結構ね、人いたんですよ。解体業者みたいな人もいたし、写真撮ってるのもいたし、あっちにはホームレスもいたし。

イワモト
スズキ
ママも。
ママね。

イワモト
スズキ
早く帰らなきゃ。
うん、帰ろう。

イワモト
スズキ
あのビルだ。
……ねえ、あれは違う人なんだよ。

イワモト
スズキ
スズキさんにはわかんないんだ。
わかんないけどお前、女の人全部にママっていうだろ。

タロウ(仮) あれはママだよ。帰らなきゃ。

イワモト ああ…、

スズキ それじゃお前の母さんはどうなる！

イワモト ……。

スズキ お前がそうやってフラフラしてる間に俺の残業手当はどんどんかさんでくんだぞ。

払ってんのがお前の母さんだよ。

タロウ(仮) 怒ってる。

スズキ 怒ってるよ。

タロウ(仮)、ゆっくりとうずくまり、顔を覆う。

スズキ ……すいません、何でしたっけ。

イワモト あ、いや…。

スズキ (タロウ(仮)の肩を抱いて) ごめん、ごめんな。怒ってないよ。もう怒ってないから。

タロウ(仮) スズキさん。

スズキ え？

タロウ(仮) さっき、お金拾ったんだ。

スズキ おう、

タロウ(仮) これでさ、僕のこときいてよ。

スズキ ……。

イワモト、笑う。

スズキ、イワモトを見つめるが、イワモト、笑いつづける。

スズキ ……おかしいですか。

イワモト だってさ、五十円でしょ。巨額の富じゃないですか。

タロウ(仮) スズキさん、受け取って。

スズキ どうして。

タロウ(仮) もういやなんだ。

スズキ 何が。

タロウ(仮) スズキさんの、やさしさが。

スズキ ……。

タロウ(仮) 嬉しいけど、たぶん、嘘だから。

スズキ 嘘なのかな…。

タロウ(仮) これあげるからさ、本当のことってよ。

スズキ 本当のことって。

タロウ(仮) 僕のこと、嫌いでしょ。

間

スズキ、コインを受け取る。

スズキ 好きだよ。

タロウ(仮) ……。

スズキ うちに帰ろう。

イワモト、拍手

スズキ 何ですか。

イワモト いや、ここは拍手でしょう。

スズキ 見世物じゃないんです。

イワモト すいません。でもさすがに五十円じゃね。ガリガリくんも買えませんもんね。

スズキ ……。

イワモト 知りませんか？

スズキ え、

イワモト ガリガリくん。

タロウ(仮) おいしいよねー。

イワモト (同時に) ねー。

スズキ あなた何しに来たんですか。

イワモト どうでもいい用事ですよ…。

スズキ 帰るぞ。

タロウ(仮) ……。

スズキ なあ。

タロウ(仮) この人と遊んじゃ駄目？

スズキ 人を困らせるなよ。

イワモト 別に構いませんよ。

タロウ(仮) どうだ。

スズキ 帰ろう。寝る時間だろ。

タロウ(仮) ここで寝る。あっちにいたおじさんみたいに。

スズキ え？

タロウ(仮) 今日からここに住む。

スズキ 何バカなこといつてんだ。あいつらうちがないからああやってんだぞ。

タロウ(仮) 違うよ。

スズキ 何が。

タロウ(仮) 違うよね。

イワモト ……違うんじゃないですか。

スズキ ……気が合うみたいですね。

イワモト うちがうちだという気がしないから、うちを捨てて、うちをつくるんでしょう。

スズキ は？

イワモト リアリティーの問題ですよ…。

スズキ 何なんですか…。

タロウ(仮) わからない？

スズキ わからないよ…。

タロウ(仮) 帰るっていう気がしないんだよ。スズキさんが帰らなきゃって言って、タクシーに乗って、あのときにいつもわからなくなる。車から降りて、大きな門をくぐると玄関のドアが開いて、やせた女の人がお帰りっていうけど、それが僕でいいのかって…。

スズキ ……あの家にたいていまって帰れるのは誰か、別の人なんじゃないかって思う…。

スズキ ……。

タロウ(仮) 嘘なんだよ…。あの家も、あの人も…、僕も。

スズキ 俺は…？

タロウ(仮) ……。俺も嘘なの…？
スズキ
タロウ(仮) スズキさんは嘘つきだよ…。

間

スズキ 一人になってみるか…？
タロウ(仮) いいの？
スズキ そんなに一人になりたければなればいいだろう…。
タロウ(仮) 嘘じゃないんだね…。
スズキ (イワモトに) 用事は、いいんですか？
イワモト はい？
スズキ 何とかビルの。
イワモト 今頃行っちゃって、馬鹿にされるだけだからねえ…。
スズキ こいつの面倒、見てやってくれませんか？
イワモト 俺が？
スズキ いい金貰えますよ…。今日連れて帰ってくれば。
イワモト そんな、いきなり…。
スズキ 結構楽しい仕事でしたよ…。昼に迎えに行つて、日が暮れるまで東京中連れまわして…。楽しかったな…。
タロウ(仮) 楽しかったね。
スズキ 頼られるのもいいもんだよな。俺がいないと何もできない奴って、最高だよ…。
タロウ(仮) ……。
スズキ お金、返してやるよ…。

タロウ(仮)、とまどいつつ手を伸ばすが、スズキ、わざと落とす。

M8 "the philosophy of momus" by momus 著 © J.C. I.

タロウ(仮) ……。
スズキ 拾ったら？一人で生きていくんだろ…？

タロウ(仮)
スズキ

………。

俺、もうこれで帰るからな。自分で道路まで出てタクシー拾うか、連れて帰ってもらうかしらよ…。

イワモト

あの、当てにしています？

スズキ

……。

イワモト

俺、嫌ですからね。そういうの、やってないんで。

タロウ(仮)、硬貨を地面に投げつける。

イワモト

…もしかして、俺に怒ってる？

スズキ

じゃあ。

イワモト

ちよつと…。

スズキ

うちに行ったら、こいつの母親には気をつけてくださいよ。何とか若い男啜え込もうとして、たいへんですから。

イワモト

…行ったらって、何にもしませんよ？

スズキ

いいですよ…。いいです、好きにしてください…。

イワモト

…。

スズキ

(タロウ(仮)に)じゃあな…。

スズキ、去る。

イワモト、タロウ(仮)と目が合う。M8 V. UP.

SCENE 5.3

カナ、入ってきて、窓へ。

イワモト、去ろうとする。

タロウ(仮)、追う。イワモト、振り向く。

カタヤマ、入ってくる。

イワモト、去る。タロウ(仮)も後を追って去る。

カナ

ここ、このままつくりかけでオープンするといいかもね。無法地帯ってことにしてさ。こんなところ、完成する必要ないもんね。そう思わない？ 何でもありって究極のテーマパークでしょ。これだけ無意味な場所っていいよね。

カタヤマ

大丈夫？

カナ

……（うなづく）。

カナ

どうしようもないわね。

カタヤマ、うまく反応できない。

カナ

話しかけてもいい？

カタヤマ

いいですよ……。

カナ

あのさ、ネコがモンプチビーフ食べるのって間違ってると思わない？

カタヤマ

……え？

カナ

ネコがウシを食べてるんだよ？

カタヤマ

ああ……。

カナ

……。

カタヤマ

それだけですか……？

カナ

想像してみてくださいよ。ネコがウシを食べてるとこ。

カタヤマ

……。

カナ

ニャア。モー？ ニャニャニャニャニャニャニャ。モー！ モー！

カタヤマ

いいです。真似しなくて。

カナ

絶対ヘンだよね……。

カタヤマ、初めて安心した笑みを見せる。

カナ

ドッグフードなら、食べたことある。

カタヤマ、愕然とする。

カナ 命令されてね。四つん這いになって口で食べた。

カタヤマ それは何を…。

カナ ビタワン。……愛犬の栄養食。

カタヤマ ……どうしてですか。

カナ 半分ギャグだったのかもしれないけど、調教で。お仕置きなのかご褒美なのかよくわからなかったけど。前はよく、イヌ用の骨のおもちやを啜えさせられた。

カタヤマ ……っというよりは、わたしがそういうこと、

カタヤマ 冗談です…。

カナ ……。

カタヤマ すいません、何かそういう話きくと、困っちゃって…。

カナ 困る？

カタヤマ 目の前でそういう話されると。

カナ 全然そういうのわかんない？

カタヤマ あ、話って何ですか？

カナ これだけ。

カタヤマ イヌになるか、支配者になるかって話。…どっちもいや？

カタヤマ どっちもいやですよ。

カナ どうして。

カタヤマ どうしてって？

カナ 誰か好きな人がいて、その人と接触を持つためにはどちらかを選ばなきゃいけない

カタヤマ ときは？

カナ ……。

カタヤマ わたしはイヌをとったの。

カタヤマ でもぼくは違いますからね。

カナ そうか。

カタヤマ 悪いですけど。

カナ　　んんん、悪いことなんかはないよ？ 誘ってるわけじゃないから。
カタヤマ　え？
カナ　　…あ、そういう悪いじゃないんだ。

変な空気が流れる。

カタヤマ

……。
どうしたの？

カタヤマ

……いや、いいです。

カナ

なに？

カタヤマ

いえ…、きいてもいいですか？

カナ

いいよ？

カタヤマ

イ又になるみたいなのって、相手のことを好きだからですか？

カナ

んー、どういうこと？

カタヤマ

イ又になることが好きなんですか？ 相手が好きだからイ又になるんですか？

カナ

好きっていうか、必要なのね。自分じゃないものになることが。でもそれは嫌いな

カタヤマ

人の前ではできないことなの。そういう技術があるのね。わかるかな。

カタヤマ

…なんとなく。

カナ

あの人と会ってやっと、自分がされたいことっていうか、ほしいものがわかってき

カタヤマ

たの。それまでも何人かに叩いてもらったり、縛られたりとかしたんだけど何が

カタヤマ

違って、こういうのだったらわたしは要らないって思ってた。

カタヤマ

何が違うんだろう。

カナ

関係だよ。あの人に奉仕してるときに一番、ていうかあの人との時だけ、自分を

カタヤマ

追い出して楽になれたのね。それはあの人の方が順々にわたしの自我を剥がしとって

カタヤマ

れるわけだけど、浄化される。

カタヤマ

え？

カナ

自分が自分じゃなくていいっていうような…、ね？

カタヤマ

いや、ねじゃなくて。

カナ

あの人だとね、だんだんものになっていけるの。

カタヤマ

…さっきもそうだったんですか？

カナ (首を振る) さつきは違った。無理してるのがすごくわかる。あなたを巻き込めなかつたからだと思っけど、あたしもイライラしてたし。

カタヤマ はあ…。

カナ こういうのが一番かなしい。

カタヤマ 俺のせいですか？

カナ

ううん。そうじゃなくて、あの人が無理をして挫折するのが、見ててくるしい。会った頃はそういう心配なかったのよ。ほんとにプレイだけの関係だったから。わたしの前でとにかく完璧なパートナーだったわけ。でもわたしにもいろんなことが見えてくる。わたしが近づきすぎたのがいけなかったんだけど、気づかなくてもいいことがいっぱいあった。コンプレックスの部分ね。それから、あの人自分でよくわかってないのよ、たぶん。わたしの欲望がわかっているほどには自分の欲望がハッキリしないの。だからああいう風になる。そうならもう、ゴキブリでもできるよ。うなセックスしか残されてないわけ。

カタヤマ ゴキブリですか…。

カナ 本当はね、あの人が死んでくれるのが一番いいんだ。

カタヤマ どうして。

カナ 必要なのはあの人じゃなくて、あの人が作ってくれたような関係だから。それがや

カタヤマ つとわかった。二つをこっちゃんにしてはいけないうことがわかったの。

カタヤマ でも、だからって…

カナ あの人、限界なのよ…。

問

カタヤマ 自分じゃなくなりたいっていうのは、どうしてですか？

カナ わたし、わたしの裸にうれしい顔をする人が嫌いなんだ。自分でも自分のからだ嫌

カタヤマ いだしね。

カタヤマ ……。

カナ 男の人の硬いからだがほしかったと思う。とにかく今のからだを脱ぎたくて、いろ

カタヤマ いろやってみたの。

カタヤマ 脱皮とか。

カナ …それは冗談だ。

カタヤマ よかった。

カナ そういうこというのって、よくない。

カタヤマ ?

カナ よくない。冗談のつもりっていうのは単に自分への言い訳だから。

カタヤマ ……。

カナ 興味ないんだったら、そういえばいいと思う。鬱陶しいならそういえばいいじゃない。どうして茶化すの？

カタヤマ ……。

カナ あの人も…、あなたも…、そうやって人を追い込むのよ。そして関係ない顔して遠

いところでわらうの。…何？

カタヤマ …きみも、同じか…。

カナ は？

カタヤマ きみもミサコと同じだ…！

カナ 何よそれ。

カタヤマ 勝手に甘えて勝手に怒ってる。

カナ わたしが甘えてる？

カタヤマ 何かさ、俺がきみの話につきあうのが当たり前みたいになってる。

カナ ……。

カタヤマ 俺それどころじゃないんだよ……。

カナ ……あなたとつきあってた人の気持ち、ちょっとわかるな。

カタヤマ わかるって何が…。

カタヤマ ううん、ごめん。

カタヤマ ……！

SCENE 6.1

イワモト、入ってくる

イワモト ……こんばんは…。

二人 ……。

イワモト ……違うのかな…。

カナ 何ですか…？

イワモト サノっていう奴は…

カナ ちよつと、出ちやって…。

イワモト じゃあ、あなたがサノの。

カナ ええ…、まあ。

イワモト (カタヤマに) あなたもサノに呼ばれて…？

カタヤマ …いえ。

イワモト もう終わっちゃいました？ まだセーフ？

カナ …何のことですか…？

イワモト ……。あいつ、最低だな。何にも聞いてないの？

カナ 誰か来るって話だけは…。

イワモト …俺なんですけどね。

カナ はい、自由にしていい女がいるって…。

イワモト ……………。

SCENE 2

タロウ(仮)、入ってくる。

タロウ(仮) ……。

カナ 何よ。

タロウ(仮) ……………。

カナ あんた何なのよ、さつきから！

イワモト じゃ、俺帰りますから。そいつの面倒、見てやってくれます？

カタヤマ ええ？

イワモト 連れて帰ればいい金貰えるみたいですよ。

カタヤマ 何で俺がそんなこと、

イワモト 俺も押しつけられちゃったんです。あとね、こいつのうちの母親には気を…

カナ (出口へ向かい) サノさん！……………いるんでしょ？ わたしサノさんのやろう

イワモト としてることがわかんない。全然わかんないよ！

イワモト ……………。

カナ こんなことされたら困る。本当に困る。出てきてよ！

イワモト いないんじゃないですか…。

カナ ……出てこないんじゃない一緒にね。

イワモト さっきの話ですけどね…

カナ 何やってんの。

タロウ(仮) ……。

カナ 帰れば。

タロウ(仮) ……。悪いけどつきあってられないの。出てってよ。

カナ どうして。

タロウ(仮) お前、どうしてとかじゃないだろ。

カタヤマ ぼくはどこへ行けば……………

タロウ(仮)

カタヤマ 知るか！

タロウ(仮)、スパナを出す。

カタヤマ おい…。

M9 “ TAKE YOUR PARTNER BY THE HAND (DJ PREMIER INSTRUMENTAL MIX) ” by HOWIE B.F.I.

イワモト じゃ。

カタヤマ ちよつと…！

SCENE 6:3 イワモト去る

タロウ(仮) うちをつくろう。すごくいい場所を見つけたんだ…。

カナ 何…。

タロウ(仮) 海に面しててね。広くて、何もなくていいところなんだ。一緒に行こう。

カナ まだママだと思ってるの？

タロウ(仮) 違うのはわかっている。でもぼくにはこれしかない。新しい家をつくるんだよ…。近

カナ
寄るな！
それを捨てて。

タロウ(仮)、カナを蹴る。倒れるカナ。

カタヤマ
おい！

タロウ(仮)
言うとおりにして。

カナ
(カタヤマに)大丈夫。

タロウ(仮)
どんな家がいい？花壇には花を植えて、窓からいつも花が見えるようにしようか。

カナ
寂しくなったらぼくが歌を歌うよ。ねえ、一緒に住もう…。僕と暮らすんだよ…。
イヤだっけいっただらどうすんの…？

タロウ(仮)

カナ
ねえ。

タロウ(仮)
ママを、殺す…。

カナ
できんのね…。

タロウ(仮)
……………。

カナ
(立ち上がる)イヤだ。

タロウ(仮)
……………。

カナ
絶対イヤ。

タロウ(仮)
……………。

カナ、タロウ(仮)に背を向けてその場を離れる。音。タロウ(仮)の手からスバナが落ちる。崩れ落ちるタロウ(仮)。カタヤマ、スバナを奪う。

カタヤマ
シヤレンなんねえよ…。

カナ
カタヤマさん。

カタヤマ

カナ
何。
あたしき、この人の死ぬとこみたいな。

カタヤマ
？

カナ　ねえ。あなたが死んでくれるなら、ママになるよ……？

M10 * Andere Farbe, neue Farbe, by Oval F. I.

カナ　どうすればいい？

タロウ(仮)、カナを抱きしめる。

カナ　カタヤマさん、やっちゃおうね。

カタヤマ　何で。

カナ　いいらしいよ。殺してあげよう？

カタヤマ　え…。

カナ　痛いなあ。

カナ、暴れる。足を蹴る。M11 V.P. タロウ(仮)、離れない。

カナ　早く………早く………早く………、やれ！

カタヤマ、スパナをタロウの背中に叩きつける。

崩れ落ちるタロウ(仮)をカナは冷徹に見下ろす。暗転。

SCENE 6.4　カナ、へたりこんだカタヤマの髪を撫でる。スズキが来る。暗転。

SCENE 6.5　スズキ、タロウ(仮)の前に跪く。サノが来る。暗転。

SCENE 6.6　タロウ(仮)を担ぎ上げて出て行くサノ。暗転。

SCENE 6.7　スズキ、出ていく。暗転。

SCENE 7.0

窓辺に立つカナ。カタヤマはうずくまって動かない。
サノ、戸口に現れる。MIO F.O.

カナ どう思うの…。

サノ 何。

カナ どう思うの、今までのこと。

サノ ……それはこっちがききたいよ…。

カナ ……。

サノ (カタヤマに)おい…。

カタヤマ ……。

サノ 泣いてんのか。

カナ やめて。

サノ 返事しろよ。泣いてんの。

カタヤマ、顔を見せずに無言で立ちあがる。

サノ ……。(カナに)お前、何したの。

カナ サノさんには関係ない。

サノ あっ、そう…。言いたいこと言えば。

カナ え？

サノ 口で言えよ。目で何かすんのやめろ。

カナ あなた何したかったの。こんなとこよんで。

サノ まだ終わってないよ。やることは残ってる。

カナ それは何。

サノ ……わかるだろ。

カナ わかんない。

サノ じゃあ駄目だな。それ以上何もわかりはしない…。

サノ、スパナを拾い上げる。

カナ
サノ

……なんでああいうことしたのか、いって。要するに、ゲームだったんだよ。予定はだいぶくるったけどね。(カタヤマに)ここに来ようと思ったのって、雑誌読んだからだろ？ 2月号のページ。あの写真撮ったの俺だよ。寒かったな。海からの風がビュービュー吹いてたよ。風遮るもんが何にもなかったからな。そこでずっとお前のこと考えてた。もう少し暖かくなったら、二人でこの景色見ようと思ってた。

……。

「シエルタリング・スカイ」っていう映画、観た？

(首を振る)

小説のほうがいいけど、中年のアメリカ夫婦がモロッコに行くんだよ。二人とももう手詰まりで、これからどうしたらいいのかわからなくなってる。わからないまま二人でサハラ砂漠の奥へ奥へ行く。

それが何。

夫のほうが悪病に罹る。何日も口をきけないような状況が続く。家具も何もない部屋で、妻は夫が死ぬのを待つ。

だから何よ。

死ぬ前に彼は意識を回復するんだ。二人きりで向き合う。終わるんならこうだと思っただよ。

え？

俺はこのフロアで、カナに好きだっていうか、殺されるかしようと思ってた。

……。

やっぱりわかんないだろ。

……どうするの？

え？

どっちにするの。

まだ決められません。

嘘でしょ。

何で。

そのくらいわかる。もう決めてるでしょ。

どっちだと思っ？

サノ

カナ

サノ 俺が死ぬのが一番いい、か。そんなこと考えて何かいいことあったか。

カナ。

サノ ガツカリさせるね。

カナ でもほんとにそう思う。

サノ だから何だ。生きてるんだからしょうがないだろ……。

カナ。

サノ もっとマシなこと言えよ。

カナ サノさんってサディストじゃないよね。

サノ。

カナ わたしにしてくれたことは何？ サービスだったの？

サノ 別に。

カナ ゲーム？

サノ 違う。

カナ 何。説明してよ。

サノ説明しなくちゃ駄目か。

カナ お願い。

サノ 繰り返しだね。

カナ。

サノ 同じことの繰り返しさ。わかりもしないことを聞いて。

カナじゃあ、どうしたらいいの……？

サノ。

カナ ねえ……。

サノ (カタヤマに)何見てんだよ……。帰るんだろ。

カナあんた絶対間違ってるよ。

サノ 悪いけどさ。俺もう君には興味ないな。

カナ。

サノ 人が言った言葉を自分が言いたいことのために持ち出す奴は、最低だ。

カタヤマあんた、今どうしようとしてる。カナさんに。

サノ 何だよ。

カタヤマ もっと普通にできないのかっていってんだよ！

サノ ……………君は、俺に対して何をできる…？

カタヤマ ……。

サノ カナを俺から守ろうとしてるの。それで何を…？

カタヤマ ……………。

サノ、スパナをカタヤマに突き出す。

……？

カタヤマ ……これがあから黙ってんのか。

サノ、スパナを床に置く。

サノ 普通にとってどういう意味か、教えてくれよ。

間

カタヤマ 俺も、あんたのことなんか興味ないですよ。でも、この人を傷つけてほしくないんです。駄目でしょう。おかしいですよ。

サノ 君の女は？

カタヤマ そんなこと関係ない。

サノ 人のこという前に、死んでんのか見なきゃ。

カタヤマ 俺はあんたとこの人のこと話してんだ。

サノ 見てやれよ。

カタヤマ ええ？

サノ 俺はカナがどうなっても、見るよ。カナの頭蓋骨が、さっきの奴みたいに割れてても俺だったら逃げない。カナがからだから汚いものを出していても俺は見るよ。

カタヤマ ……………。

サノ カナはこの人のことどう思う？

カタヤマ え？

サノ 俺が来る前と俺が下にいる間喋ってたろ。

カナ
でも、どう思っついていわれても、俺は俺なりに見たよ。手にとるようにわかるな。おそろくそんなに外れてないよ。

サノ
えーと、名前忘れちゃったな…、何だっけ。ああそうだ、ナガヤマさん。

カタヤマ
カタヤマです。

サノ
カタヤマさん、カタヤマさんだ。……………あなた自分が何に支配されてるか、自分でわかってます？

カタヤマ
……………何だっついていうんですか。

サノ
恐怖。恐怖だよ。どう？これからどうなるかとか、自分が何されるかとか、人が何を

するかとか、全部怖がってるよ。しかも殆どは想像で怖がってるね。だから死な

れちゃうんじゃない？

サノさん！

また名前で呼びやがったよ。

でももういいでしょう？今日、サノさんへんだよ…。

へんって？

いわなくてもいいことばかりいってる。

君に対して？

そうじゃないけど…。

けど？

結局大事なことは何もいってない、でしょう？

…そうだね。

わざと？

違うな。

……………待ってる。

サノ、カタヤマに目をやる。二人の目が合う。

サノ、カタヤマに笑いかける。カタヤマは黙っている。

カナ、君はまだ俺が要るの？

……………。

この今日が終わって、また君はいつか、俺に電話をかけて予定きくの？

カナ
サノ

わからない。
君を跪かせるのって、苦しみを伴うのね。コントロールするのはつらいことだよ。神経擦り減るよ…。うまい人もいるんだろうね。緊張関係を楽しめる人もいるんだろうね…。自由を奪いながら安心感を与えてあげるっていうのは割とうまくいく。でもそのあとにカナのからだの匂いを振り切るのは凄く難しい。傷つけたっていう衝動が消えないようにするのがきつくなるときがある。もう最近ずっと、君の中に踏み込めないのね。君の一番大切なものを手にできないんだ。

カナ
サノ

カナの細い首に首輪をつける。カナの顔がほどけていく。それを見ながらカナを突き放す。カナが震えながら俺のいうとおりにからだを開いていく。不思議な浮遊感が俺を動かしてくればそれでいい。覚醒したまま、君を支配することができる。何でもできる。くるっていく君を見下ろしながら、俺は静かな高揚感を抱えてわらう。全てが終わって、俺は君の髪を撫でながら、引き裂かれていく。

カナ
サノ

君の部屋を出て、自分の家に帰って一人で眠る。次に会う日までの時間を思う。やろうとしてできなかった責めのことを考える。柔らかいカナのからだの感触が熱のように残る。何日かが過ぎる。ほかの女と寝る。何日かが過ぎる。そしてカナから電話がかかる。何なんだろうね……。
……ゲームだったなんて嘘でしょう…。

カナ
サノ

サノ、頷く。

カナ
サノ

謝らなきゃね…。何とかしたかったんだよな。自分の、欲望を掴みたかったんだ。

カナ
サノ

……それで。
まだ終わってないのはそれさ…。でも、もういいよな…。

カナ
サノ

どうして。
これ以上人を振り回すわけにはいかないしね…。

カナ
サノ

………。
さっきナガシマさんってたけどさ。

カナ
サノ

カタヤマです。

カタヤマ

サノ ……自分に会った女選ばなきゃ、か。そんなこと言われちゃあな……………。

サノ、激する。

サノ それが真実だとしたら、そんなことが真実だとしたら、俺は自分以外の男をみんな殺してやるよ…！

サノ、笑う。

サノ カナ、俺はお前でね、わけわかんなくなつた。わかかないよ。長いこと時間をかけて掴んだ自分の欲求が、お前で揺らいだよ。救いようがねえよな。コウサイしたくなつたりしたね。

え？

サノ 交際。映画観に行ったり、落ち込んでるときに慰めてあげたり、長電話したり、退屈な友達の名前覚えたり、愛してるわけを毎週考えたり、喧嘩したりしたくなつた。魔が差すみたいだね。そういうこともあつた。

何それ…。

サノ 何それ、か。どうして何それなんだ。わかってるんだろ？ わからないようなこというな！

何が。

サノ 俺とカナの間にあるものと……………、あるべきものだよ、見えてるだろ？ 行ってくれよ。必要なんだ！……………君はさ、何ともないの。

え？

サノ 俺には答えが要るんだ。明確な何かさ。君は何でもしていいって言いなから、俺を追いつめてくよ…。何でもできたのに…。君の待っていることを、君の予想もしなかつたようなことを何でもできたのに、それが君と俺を決定づけていたのにもうそれがわからないんだ。

……………。

サノ カナ いま確信を持ってやれるのは、首輪をつけることだけだ…。首輪をつけるときだけは、きみの顔を見て安らいだ気持ちになれる。

カナ
つけて…。

MI1 "Interieur" by Jean Bart F. I.

サノ
カナ
サノ
……。
つけてよ……。
……。

カナ、手首を揃えてサノに差し出す。

カナ
サノ
カナ
駄目なの……？
……。
（駄目、だよね）……。

間

カナ
サノ
カナ
サノ
カナ
サノ
カナ
サノ
……わたしもサノさんに首輪されるの、好きだったよ。頭が溶けるくらい好きだった。……サノさんはいつも、わたしのからだに跡が残らないように、傷をつけないようにしてくれて……、でも、何か欲しかったな。
……。
消えない傷が、ほしかった……。
……。
もう電話、しないよ……。
……。
電話番号も、捨てる。忘れるようにする……。
……。
そもそもっと、キレイになるよ……。

サノ、頷く。

サノ
わかった…。

M12 “ Back where we began.” by John Greaves C.F.

サノ
じゃあな…。

サノ、去る。

SCENE 7.1

カナ、サノの去っていった方を目で追う。

カナを見つめているカタヤマ。

カナ、ゆっくりと右目を擦る。

カナ、ラジカセを持ち、帰ろうとする。

出口の前で立ち止まり、振り向く。

カタヤマ、静かに窓へ。窓を開け、下を見る。M12 V. UP.

カタヤマ、ゆっくりと首を振る。

カタヤマ、またタバコを出す。M12 F.O.

カタヤマ
ライターあります…？

カナ、首を振る。

カタヤマ
やっぱ死んでますよ…。

カナ
……………。

カタヤマ
こんなでっかい荷物持ってきて、こんなとこで…。あいつライター持ってきてないかな…。

カタヤマ、スーツケースを開ける。

カナ
じゃあ、あたし帰るね…。

カタヤマ

カナ
…待って。
何…。

カタヤマ
そのラジカセ、ちょっと貸してくれますか？

カナ
どうしたの。

カタヤマ
カセット。カタヤマヒサシさまへって書いてある…。ちょっとだけ貸してくれますか？
……………。

カナ

カナ、黙ってラジカセを持っていく。

カタヤマ、カセットを再生する。ミサコの声が流れる。

ミサコ

カタヤマくんへ…カタヤマくんはわたしを…カタヤマくんにはわたしさえ…カタヤマくんはわたしは…カタヤマくんもわたしは…カタヤマくんをわたしは…カタヤマくんにわたしの…カタヤマくんからわたしへ…

カタヤマ

(笑おうとして笑えない)何だよこれ…。

M13 "The Song" by John Greaves F. I.

ミサコ

カタヤマくんならわたしって…カタヤマくんだけ…カタヤマくんにはわたしでも…カタヤマくんはわたしだから…カタヤマくんしかわたしに…カタヤマくんよりはむしろわたしに…カタヤマくんじゃないわたしは…でもカタヤマくんはわたしは…だってカタヤマくんはわたしは…いたいカタヤマくんは…だからカタヤマくんはわたしは…

カタヤマ、テープを早送りする。再生する。早送りする。M13 V. UP.

カタヤマ

ミサコ

信じらんねえよ……………。
それでカタヤマくんはわたしは…どうかカタヤマくんはわたしは…やっぱりカタヤマ

マくとわたしは…どうしてもカタヤマくとわたしは…もうカタヤマくとわたしは…いつもカタヤマくとわたしは…どうにかカタヤマくとわたしは…せめてカタヤマくとわたしは…カタヤマくんなんかわたしは…カタヤマくんだけでわたしは…カタヤマくんじゃわたしは…カタヤマくんだけがわたしを…たぶんカタヤマくんはわたしが…

カタヤマ、カセットを取り出し、床に叩きつける。
そのまま立ち尽くす。

カナ、カタヤマを見続ける。

非常にゆっくりと照明が落ちてゆく

“ knob、完

equipment: FUJITSU FMV-BIBLO NC13D

Canon BJC-210J

Justsystem | 太郎